

1. 期間：2009 年 2 月 20 日（金）－2 月 28 日（土）
2. 開催地：東京、東京国際フォーラム（有楽町）
3. 参加者：44カ国18機関から218名が参加
内、日本からは39名が参加（オブザーバー含む）

4. 内容：

4. 1 ISO/TC176/SC1（概念及び用語）

1) ISO9000（基本及び用語）

(1) 活動背景

ISO9001 及び ISO9004 の改正に伴い、ISO9000 の改正検討を実施中。

(2) 活動内容及びアウトプット

- 前回の会議（セルビア会議、2008 年 5 月）で作成した予備的作業文書（pre WD）及び ISO9000 改正のための規格の設計仕様書に対するメンバーコメントの検討
- ISO9000 改正のための第 2 次規格の設計仕様書の作成
- 次期 ISO9000 改正版は、ISO9004 改正版及び品質マネジメント原則と品質マネジメントとの関係の強化という観点から、第 2 章の基本部分は現行版の ISO9000:2005（JIS Q9000:2006）とは異なった構造となる予定

提案された構造	ISO9000:2005
	Introduction 0.1 General 0.2 Quality management principles
2 Fundamentals	2 Fundamentals of quality management systems
2.1 General	2.1 Rationale for quality management systems
2.2 Principles	2.2 Requirements for quality management systems and requirements for products
2.2.1 Principles relevant to value aspects of QM: (1) Customer Focus, (2) Mutual supplier relation	2.3 Quality management systems approach
2.2.2 Principles relevant with management aspects (3) Continual improvement (4) Factual based Decision Making (5) Systems approaches (6) Process approach	2.4 The process approach
2.2.3 Principles relevant people aspects (7) People involvement (8) Leadership	2.5 Quality policy and quality objectives
2.3 Development of fundamentals into a QMS model	2.6 Role of top management within the quality management system
2.3.1 PDCA approaches	2.7 Documentation
2.3.2 Process approaches	2.7.1 Value of documentation
2.3.3 Connecting to QMS models	2.7.2 Types of document used in quality management systems
2.4 QMS model	2.8 Evaluating quality management systems
2.4.1 General	2.8.1 Evaluating processes within the quality management system
2.4.2 Requirement for QMS and its product	2.8.2 Auditing the quality management system
2.4.3 PDCA in QMS	2.8.3 Reviewing the quality management system
2.4.3.1 Planning and design of processes and systems	2.8.4 Self-assessment
2.4.3.2 Activities in QMS	2.9 Continual improvement
2.4.3.3 Evaluation and improvement of QMS	2.10 Role of statistical techniques
2.4.4 Leadership	2.11 Quality management systems and other management system focuses
2.5 Beyond QMS	2.12 Relationship between quality management systems and excellence models
2.5.1 ISO 9001 model	
2.5.2 ISO 9004 model	
2.5.3 QMS model and excellence model	

2.5.4 Integration of QMS and other management systems	
3 Terms and definitions	3 Terms and definitions
3.1 Terms relating to quality 3.2 Terms relating to management 3.3 Terms relating to quality management 3.4 Terms relating to organization 3.5 Terms relating to process and product 3.6 Terms relating to characteristics 3.7 Terms relating to conformity 3.8 Terms relating to documentation 3.9 Terms relating to examination 3.10 Terms relating to audit 3.11 Terms relating to quality management or measurement processes 3.12 Terms related to customer satisfaction and dispute resolution 3.13 Terms related to configuration management 3.14 Terms related to quality in project management	3.1 Terms relating to quality 3.2 Terms relating to management 3.3 Terms relating to organization 3.4 Terms relating to process and product 3.5 Terms relating to characteristics 3.6 Terms relating to conformity 3.7 Terms relating to documentation 3.8 Terms relating to examination 3.9 Terms relating to audit 3.10 Terms relating to quality management or measurement processes
Annex A (informative) QMS model diagram Process approach model diagram PDCA model diagram Relationship between principals and QMS model Annex B (Informative) List of ISO 9000 family of standards and their status Annex C (informative) Concept diagrams Annex D (informative) Cross list of term numbers in ISO 9000:2000, ISO9000:2005 and ISO 9000:20xx Bibliography	Annex A (informative) Methodology used in the development of the vocabulary

2) 品質マネジメント原則ワークショップ開催

(1) 活動背景

前回の会議(2008年5月、セルビア)でISO9000の改正に関して、ISO/TC176/SC2及びISO/TC176/SC3との連携の強化のためのワークショップ開催を日本が提案し、決議された。

(2) 目的

- ISO9000の改正、特に第2章の基本事項に関する審議に対する、規格の構造、品質マネジメント原則の取扱い、及び品質マネジメントの基本事項に関してTC176におけるコンセンサスを醸成し、今後の改正審議のインプットとすることを目的とする。

(3) 活動内容及びアウトプット

- 2月24日(火)の18時から20時までISO/TC176品質マネジメント原則に関するワークショップを開催した。
- ISO/TC176/SC1を代表して日本代表委員の椿委員が、現在改正審議が行われているISO9000における品質マネジメント原則の取扱い及び改正ISO9000の構造に関する提案を行った。
- ワークショップには、SC1からの報告に加え、ISO9001/9004の開発を担当するISO/TC176/SC2/WG18のプロジェクトリーダーであるJeffrey Hooper氏からISO9001における品質マネジメント原則の説明が行われた。
- 二名の報告に引き続き、ISO9000の改正(特に、内容及び構成)、品質マネジメント原則の適用に関する議論が行われた。

3) 今後の予定

次回、ISO/TC176/SC2のインタリム会議(ISO/TC176は2010年にコロンビアで総会)に合わせてISO/TC176/SC1会議を開催し、改正規格の設計仕様書及び第2次予備的作業文書(pre WD.2)の審議を行う。

なお、次回インタリム会議の次期、場所は未定。

4. 2 ISO/TC176/SC2 (品質マネジメント)

東京会議では、(1) ISO9004 の改正審議 (最終国際規格 (FDIS) の作成)、(2) ISO9004 の支援文書の作成、(3) 次期 ISO9001 改正検討、(4) ISO 発行の中小企業向けハンドブックの改訂審議が行われた。

1) ISO9004

(1) 活動内容及びアウトプット

- 本会議では、2008年7月に回付された国際規格原案 (DIS) に対する各国コメント、国際規格原案に対する検証チームからのレポートを検討し、最終国際規格 (FDIS) の作成審議を行った。
- 各国投票の結果及び検証チームからのレポートが概ね好感触であったことから、日本が提案したような構造の変更に対しては消極的であり、細分箇条の統合及び入替え、重複内容の削減、ISO9001 との整合性の向上、ISO9004 内の一貫性の向上などにとどまった。
- DIS の附属書 A (自己評価ツール) については、日本提案を基に作業を行い、自己評価を行う際のステップに関する記述、一般的な成熟度モデルが一部追加された。
- DIS の附属書 B (8 原則) については、既存の支援文書への参照で十分であるという意見もある一方、重複しても重要であるので附属書としたい意向が強く、附属書に残った。

(2) 今後作業スケジュール

今後 4 週間で、編集チームで、読みやすさ、章間の整合性及び附属書 (自己評価) の見直しを行い、次に示すスケジュールで進めることを確認。

4月1日	ISO 中央事務局に pre FDIS 提出
7月1日	各国メンバーに FDIS 回付
10月	IS 発行

2) 次期 ISO9001 改正検討

(1) 活動背景

昨年のセルビア会議で次期 ISO9001 の改正検討を行うためのタスクグループを設置し、東京会議から検討を開始することが決議された。

(2) 活動内容及びアウトプット

- 新しい ISO9001 の改正作業を行うための予備的作業として、次期 ISO9001 のキーエリア及びキーコンセプトをブレインストーミングで抽出
 - 次期 ISO9001 はどのようなコンセプトのもとに検討を行うか、また、次期改正への可能なインプットには何があるかをレビュー
 - ブレインストーミングの結果から親和図を作成し、更に、各コンセプトに対する具体的な説明を検討
 - 東京会議の議論を基に、次期改正 ISO9001 に関するレポートを作成
- 上記項目は、必ずしも次期 ISO9001 の改正作業で対応すべき事項、直接的なインプットとなるものではない。

(3) 今後作業スケジュール

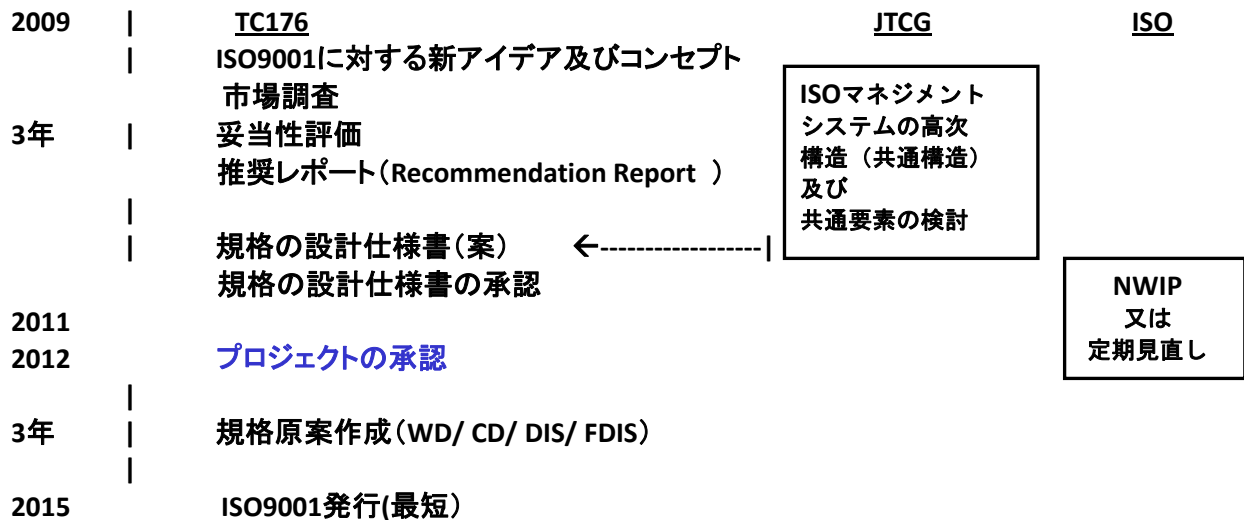
3 年間で、ISO9001 の改正に関する次の予備的作業を実施：

- 次期 ISO9001 改正に関するユーザーニーズ調査の計画及び実施
- 次期 ISO9001 改正に関するアイデア、コンセプトの継続検討
- 次期 ISO9001 改正の妥当性評価
- ISO/TC176 に対する ISO9001 改正に関する推奨レポート (Recommendation Report) の作成

(4) 次期 ISO9001 の改正スケジュール (案)

ISO/TMB/JTCG (ISO マネジメントシステム規格の整合性検討、以下 JTCG) における ISO マネジメントシステムの共通要素の明確化及び共通要素のテキスト作成と平行して、ISO9001 に対する新しいアイデア及びコンセプトの検討、市場調査及び妥当性確認などの予備的作業を行う。JTCG のインプットをも基に、プロジェクトの承認、規格の設計仕様書の作成・承認を経て起草作業を行う。この作業計画によると次期 ISO9001 の改正版の発行は早くて 2015 年となる。

次期ISO9001改正－活動計画及び規格開発スケジュール(案)



3) 中小企業向けハンドブック

(1) 活動背景

昨年のセルビア会議で ISO9001 の改正版発行に伴い、中小企業向けハンドブック（中小企業のための ISO9001 何をなすべきか－ISO/TC176 からの助言。以下、SME ハンドブックと言う。）の改訂が提案され、決議された。この決議に伴い、本ハンドブックの改訂検討グループを設置し、東京会議から検討を開始することが決議された。

(2) 活動内容及びアウトプット

- SME ハンドブックに対してこれまで提出された 9 カ国 147 のコメントを検討
- 2008 年版の ISO9001 の反映
- 2008 年版で追加された Note の反映
- ISO/TC176 の解釈ワーキンググループにおける検討事項の反映
- ISO9001 の 2008 年版と同様に SME ハンドブックの理解容易性の増加

(3) 今後作業スケジュール

- ワーキンググループ内で編集作業（書面）
- SME ハンドブック原案をメンバーに回付（コメント）
- コメントの対応
- 発行のために ISO に SME ハンドブック最終原案の送付（2009 年第 3 四半期）

4) ISO9001/9004 支援文書

(1) 活動背景

2000 年版 ISO9001/9004 改正時に ISO9001/9004 の理解促進のための支援文書（適用、文書化、用語、プロセスアプローチ、アウトソースしたプロセス）を作成。今回の ISO9001 の改正において支援文書の改正が決議されたとともに、ISO9004 の大幅改正により、ISO9004 の理解促進、活用促進、特に経営層における ISO9004 の活用を促進するための支援文書を作成することが決定された。

(2) 活動内容及びアウトプット

(a) ISO 9004:2009 実施のための指針

主な内容

- ISO9004:2009 のメインユーザーとターゲットの明確化
- ISO9004:2009 の概要、利用することによる主な便益をビジネス用語で解説
- 自己評価の活用促進

発行時期及び形態（予定）

- 2009 年 5 月に最終原案

- 文書及びスライド
- (b) ISO9004:2009 の自己評価ツールの活用指針
 - 主な内容
 - 自己評価ツールの適用、特に、自己評価の方法論、中小企業への活用指針
 - 自己評価結果の活用方法
 - 発行時期及び形態（予定）
 - 2009年5月に最終原案
 - 文書及びスライド
- (c) トップマネジメント向け小冊子
 - 主な内容
 - QMS に関するトップマネジメントの典型的な疑問への回答
 - ISO9001 の組織の品質マネジメント運用への統合導入（組織における ISO9001 の活用指針）
 - 組織の QMS を持続可能な事業、成功へ導くツールとしての ISO9004 の活用
 - 発行時期及び形態（予定）
 - 2009年4月に最終原案
 - 文書及びスライド
- (d) 組織の持続可能な成功への道
 - 主な内容
 - トップマネジメント向けに、持続的成功/パフォーマンスエクセレンスに向けて次に何をなすべきかを解説
 - 発行時期及び形態（予定）
 - 2009年4月に最終原案
 - 文書及びスライド
- (e) ISO9004:2009 の販売促進
 - 主な内容
 - 各国標準化機関向けに、販売促進用に ISO9004:2009 を紹介
 - 発行時期及び形態（予定）
 - 2009年5月に最終原案
 - 文書及びスライド
- (f) ISO9004:2009 説明用スライド
 - 主な内容
 - ISO/TC176/SC2 エキスパート向けに、ISO9004:2009 の改正に関する紹介用共通スライド
 - 発行時期及び形態（予定）
 - 2009年5月に最終原案
 - スライド
- (g) 既存の支援文書類
 - 主な内容
 - ISO9001:2008 の発行に伴い、既存の支援文書（適用、文書化、用語、プロセスアプローチ、アウトソースしたプロセス）を更新
 - 発行時期及び形態（予定）
 - 近々最終原案
 - 文書及びウェブで公開

5) ISO9001 規格解釈WG

ISO/TC176 の直下の作業グループとして設置されている ISO9001 規格解釈 WG を ISO/TC176/SC2 の WG として再編することの提案があり、ISO/TC176 総会で議論することとなった。

6) 定期見直し

ISO10005（品質マネジメントシステム—品質計画書の指針）、ISO10006（品質マネジメントシステム—プロジェクトマネジメントにおける品質マネジメントの指針）及び ISO10007（品質 マネジメントシステム—構成管理の指針）の定期見直しの結果、「確認（5年間継続）」とすることになった。ただし、これらの規格は ISO 9001:2000 を引用しているため、正誤票を出すことが決議された。また、

引用規格だけでなく参考文献も修正される予定である。

4. 3 ISO/TC176/SC3 (品質マネジメント支援技術)

1) ISO19011 (マネジメントシステム監査の指針)

(1) 活動背景

- 昨年セルビア会議で ISO19011 の改正検討が開始された。
- 適用範囲の変更
 - ISO19011 は第3者認証審査を除く内部監査、外部監査の指針とする。
 - その対象は、品質マネジメントシステム (ISO9001) 及び環境マネジメントシステム (ISO14001) だけでなく、その他のマネジメントシステムの内部監査、外部監査にも適用する。
 - 各分野別の指針は改正版の ISO19011 の附属書に記述する。
 - 内部監査、外部監査に関する新しい概念・手法 (電子審査、リスクマネジメント審査など) も追加される。

なお、ISO/CASCO (適合性評価) で検討されている ISO/IEC 17021-2 との整合性を確認しつつ検討が行われる。2008年5月のセルビア会議、2008年10月のフランス会議に続いて、今回は3回目の会議となる。

(2) 活動内容及びアウトプット

- 東京会議では、フランス会議で作成した ISO19011 の作業文書 (WD) に対して寄せられたコメントを検討し、第2次作業文書 (WD2) を作成した。近々メンバーにコメントを求めるため、回付される予定である。
- 次回は2009年6月にエジプトで開催される ISO/TC207 総会に合わせて会議を開催し、委員会原案 (CD) を検討する。

2) TS10004 (顧客満足の監視及び測定)

注：TS：Technical Specification (技術仕様書)。

IS と異なり、作業文書 (WD) の後にドラフト TS となり投票を経て TS が発行される。存続期間は3年、更新は1回までで、TS 発行後3年又は6年後に IS (国際規格) とするか、廃止するかを決定する。(通常の IS は作業文書 (WD) → 委員原案 (CD) → 国際規格原案 (DIS) → 最終国際規格原案 (FDIS) → 国際規格 (IS) という手順を経る)

(1) 活動内容及びアウトプット

- 昨年回付された、顧客満足の維持、向上を目的とし、組織が提供する製品に対する顧客満足の監視及び測定に関するプロセスの構築・運用並びに監視及び測定に関する手法を規定した指針である TS10004 の作業文書 (WD) に対する各国コメントを検討し、ドラフト TS 10004 を作成した。

(2) 今後作業スケジュール

- 2009年4月に最終原案を ISO 中央事務局に提出し、各国投票に付す (TS 発行は本年第3四半期頃)。
- TS を国際規格 (IS) とするため、TS 発行後、国際規格原案 (DIS) 作成の作業を継続して行う。

注：当初は TS を国際規格 (IS) とするための NWIP (新業務項目提案) を回付予定であったが、ISO の手続き上、NWIP は不要とされた。

3) ISO10018 (品質マネジメントシステムにおける人的側面)

(1) 活動内容及びアウトプット

- 昨年回付された、効果的な品質マネジメントシステムの構築・運用を実現し、維持し、改善するために必要な“組織の人々”の力量、認識、コミュニケーション、チームワークなど人的要素に関する指針となる ISO10018 の作業文書 (WD) に対する各国コメントを検討し、第1次委員会原案 (CD1) を作成した。
- タイトルが“Quality management systems – Guidance – Participation and Competence of People in Management Systems から“Quality management – Guidelines for managing organizational people involvement and competence”に変更された。

(2) 今後作業スケジュール

- 2009年4月に委員会原案 (CD) を回付し、各国コメントを求める。

- 第1次委員会原案 (CD1) を作成することにより、計画よりも IS の発行時期が遅れるため、ISO 中央事務局に対して開発期間の延長を申請する。これにより、国際規格 (IS) 発行は 2011 末から 2012 年初頭となる予定。

4) 顧客満足に関する規格調整グループ

(1) 活動背景

- 昨年のセルビア会議で、ISO10001、ISO10002、ISO10003 及び ISO10004 の内容及び規格開発 (改正、見直し含む) 計画の整合を図るために、規格調整グループを設置することが決議された。
- 顧客満足に関する規格開発の可能性の検討

(2) 活動内容及びアウトプット

- 今後、顧客満足に関する新しい規格開発の可能性を検討し、SC 3 リーダーシップに助言する。

5) 定期見直し

- ISO10019 (品質マネジメントシステムコンサルタントの選定及びそのサービスの利用のための指針) 及び ISO10012 (計測マネジメントシステム—測定プロセス及び測定機器の要求事項) の定期見直しの結果、両規格ともに「確認 (5 年間継続)」となった。

6) 電子商取引の規格化

- 国内、地域内、国際的な企業-消費者間の電子商取引を実施するに際しての意思決定、行動に関する原則、電子商取引の構築、運用維持に関する指針を提供し、消費者保護の観点から消費者の電子商取引に対する信頼性を向上させることを目的として ISO/COPOLCO (消費者政策特別委員会) から提案された電子商取引に関する規格を ISO/TS176/SC3 で検討することに対して、検討した。
- 今後、新業務項目提案 (NWIP) を作成する予定。

7) そのほか

- ISO/TC69 (統計的手法) で検討されているシックスシグマの規格 (DMAIC 手法、統計的手法を利用したプロセス改善アプローチ) に関連し、リエゾン関係を強化する。
- Time, Speed and Agility に関する規格化が前回セルビア会議まで検討されていたが、今回東京会議での会合、議論は行われなかった。今後、活動レポートが ISO のウェブサイトに掲載される予定。

4. 4 ポートフォリオマネジメントタスクグループ

(1) 活動背景

- 昨年のセルビア会議で ISO/TC176 における種々の規格の役割、目的を明確にするため、ISO/TC176 のポートフォリオ作成のための検討グループを設置し、東京会議から検討を開始することが決議された。

(2) 活動内容及びアウトプット

- タスクグループの目的及びアウトプット、作業の目的、スコープ、プロセスの明確化を行った。

• 合意された ToR

タスクグループは、TC176 の既存の規格及び今後新規に提案される規格を評価するプロセスを開発するために、次を行う。

- TC176 のミッション及びストラテジーと既存の規格及び今後新規に提案される規格の整合度合いを図る
- 整合を図るために必要なリソースを理解する
- これらの情報を規格の新規提案、定期見直しの一環として P メンバーに伝達する。

ポートフォリオマネジメントプロセスは、TC176 のプロセスアプローチによる。ポートフォリオマネジメントタスクグループは、ポートフォリオのレビューを行い、TC176 のメンバーにその結果を伝えるための正式な手順及び関連する文書を開発する。手順に加えて、レビューを支援するために客観的な基準を開発し、文書化する。さらに、レビューの実施又は結果に関するコミュニケーションを容易にするのに必要であると考えられる様式又は記録も作成する。また、ポートフォリオマネジメントタスクグループは、TC176 の製品を分類するための属性を公開し、この属性をすべての製品を分類するのに利用する。

- 今後は、電子的に書面で検討を行い、次回総会で検討内容を報告する。

4. 5 教育システムに関するスタディーグループ

(1) 活動背景

- IWA2（教育分野における ISO9001 の適用）に関するワークショップ及び会議が東京総会期間中に開催した。
- 教育分野における ISO9001 の適用に関して国際規格（IS）を作成することに対する必要性及び可能性に関して検討を行うことが本総会で決定した。

(2) 活動内容及びアウトプット

- スタディーグループへのノミネート募集、活動計画の検討、ユーザーサーベイの実施計画を行った。
- 次回 ISO/TC176 コロンビア総会（2010年6月又は7月）において、スタディーグループにおける検討結果を報告する。

4. 6 適合性評価リエゾングループ

- ISO/TC176、ISO/CASCO及びIAFとの連携をより緊密にし、強化する
- ISO/IEC17065（製品認証機関に対する一般要求事項）
 - ISO/CASCOで開発されているISO17065（現ISO/IEC ガイド65）の適用範囲変更に伴う混乱（製品のマネジメントシステムの認証との関係）を避けるために、ISO17065の附属書に製品のマネジメントシステムの認証との関係を説明することを求め、
 - そのための文書をISO9001 監査グループが起草することを推奨することとなった。
- ISO/IEC17021-2（適合性評価—マネジメントシステムの第3者認証審査に対する要求事項）
 - ISO/IEC17021-2の委員会原案（CD2）が回付中。発行後、ISO/IEC17021-1（適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項）と統合し、2010年にはISO/IEC17021として再発行する予定。
 - ISO/TC176/SC3としてはISO19011との関係もあり、ISO/CASCOとのより密接な協調が必要であることを確認
- UNIDOプロジェクト
 - 南アジア地域におけるISO9001の認証に関する信頼性向上プロジェクト
 - ISOとIAFとがこのプロジェクトに参画
- ISO/IAFのアクション計画
 - ISO/IAFとで、認定されたマネジメントシステムの認証の有効性に関する監視及び改善に関するアクション計画を作成
 - このアクション計画の目的はISO9001の認証の信頼性の向上及びISOブランドの保護

4. 7 ISO9001監査グループ（IAG）

- ISO9001認証に関して、よい面、悪い面の洗い出しを検討
- ISO9001の認証に関するベストプラクティスに関する支援文書の検討
- 経済産業省作成マネジメントシステム認証の信頼性に関する文書のレビュー

4. 8 ISO9001規格解釈WG

- ISO/TC176の直下の作業グループとして設置されているISO9001規格解釈WGをISO/TC176/SC2のWGとして再編することの提案があり、可決された。
- 既存の解釈案件の見直しを行い、ISO9001:2008によって解決済みとなった案件については、解釈案件としての公開を取り下げるとともに、まだ解釈が必要であるものについては、ISO9001:2008に対する解釈案件として公開を継続する。
- 今後、ISO9001:2008に対する新しい解釈案件が予想される。

4. 9 次回総会

- 次回ISO/TC176総会は、2010年6月7日の週にコロンビアのボゴタで開催予定（アメリカから懸念表明）

5. 参考：

5. 1 TC176総会決議（TC176/N935参考訳）

Resolution 1a (2009) – ポートフォリオマネジメントタスクグループのToR（委任事項）

ISO/TC176ポートフォリオマネジメントタスクフォースの設置に関する決議9(2008)に留意し、TC176は、次のToR（委任事項）を承認する。

ToR（委任事項）

タスクグループは、TC176の既存の規格及び今後新規に提案される規格を評価するプロセスを開発するために、次を行う。

- TC176のミッション及びストラテジーと既存の規格及び今後新規に提案される規格の整合度合いを図る
- 整合を図るために必要なリソースを理解する
- これらの情報を規格の新規提案、定期見直しの一環としてPメンバーに伝達する。

ポートフォリオマネジメントプロセスは、TC176のプロセスアプローチによる。ポートフォリオマネジメントタスクグループは、ポートフォリオのレビューを行い、TC176のメンバーにその結果を伝えるための正式な手順及び関連する文書を開発する。手順に加えて、レビューを支援するために客観的な基準を開発し、文書化する。さらに、レビューの実施又は結果に関するコミュニケーションを容易にするのに必要であると考えられる様式又は記録も作成する。

また、ポートフォリオマネジメントタスクグループは、TC176の製品を分類するための属性を公開し、この属性をすべての製品を分類するのに利用する。

Resolution 1b (2009) – ポートフォリオマネジメントタスクグループのコンビナ

ISO/TC176ポートフォリオマネジメントタスクフォースの設置に関する決議9(2008)に留意し、TC176は、ISO/TC 176はDr. Stanislav Karapetrović（カナダ）をタスクグループのコンビナに任命し、エキスパートをノミネートするようメンバー国・機関を奨励する。

Resolution 2 (2009) – SCからの報告

ISO/TC 176は、2009年の総会における次の報告に留意する。

- SC 1報告 (J. Lopes);
- SC 2報告(J. Davies);
- SC 3報告(R. Waumans).

Resolution 3 (2009) – WG及びTGからの報告

ISO/TC 176は、2009年の総会における次の報告に留意する。

- アラビア語翻訳タスクグループ報告(O. El Meligy);
- スペイン語翻訳タスクフォース報告(T. Marcos);
- 適合性評価リエゾングループ報告(N. Croft/P. Palmes);
- ISO9001監査グループ報告(A. Ezrakhovich);
- ポートフォリオマネジメントタスクグループ報告(S. Karapetrovic);
- ISO9001解釈作業グループ報告(R. Emmonds).

Resolution 4 (2009) – ISO9001解釈作業グループの移設

ISO/TC 176は、ISO9001解釈作業グループをSC2の権限の下に運営されるよう移設することを決議する。

Resolution 5 (2009) – ISO/TMB SR（社会的責任）ワーキンググループへのリエゾンの任命

ISO/TC 176は、SR（社会的責任）に関するISO/TMBのワーキンググループへのリエゾンとして、Mr. Pierre L'Esperance（カナダ）を任命する

Resolution 6 (2009) –ISO/TC 69（統計的手法の適用）へのリエゾンの任命

ISO/TC 176は、ISO/TC 69（統計的手法の適用）へのリエゾンとして、Mr. Tony Brown（イギリス）を任命する

Resolution 7 (2009) – ホストへの謝辞

ISO/TC 176は、ホストである日本工業標準調査会（JISC）及び日本規格協会（JSA）並びにスポンサーである日本適合性認定協会（JAB）、審査登録機関協議会（JACB）、審査員研修機関連絡協議会（JATA）、（株）リコー、富士通（株）のもてなし及びサポートに謝意を表明する。ISO/TC 176は、ISO 9001:2000の日本語版の著者に対し、この会議のためのロイヤルティ寄付に謝意を表明する。

5.2 SC1総会決議（SC1/N351参考訳）

Resolution No. 1/2009—前回国議議事録の承認

ISO/TC 176/SC 1 は、前回セルビア/ノビサド会議の議事録 (N340) を承認する。

Resolution No. 2/2009—WG 報告の承認

ISO/TC 176/SC 1 は、2009 年総会における次の報告を受け、承認する。

- WG1 報告(Dr. Truscott);
- WG2 報告(Mr. Watson).

Resolution No. 3/2009—ISO 9000 の改正

東京会議で行われた作業に関する ISO/TC 176/SC 1/WG 1 コンビナによる報告に留意し、ISO9000 の規格の設計仕様書案に対するコメントに留意し、ISO9000:2005 の改正のための“用語及び定義”及び“附属書 A”部分の第 1 次内部原案に対するコメントに留意し、品質マネジメントの原則に関するワークショップでのコメントに留意し、さらに、現在 ISO/TC 176/SC 2 で行われている ISO 9001 の改正作業に留意し、ISO/TC 176/SC 1 は、ISO/TC 176/SC 1/WG 1 コンビナの報告を承認し、ISO9000:2005 の改正作業を継続するよう要請する。

Resolution No. 4/2009—リエゾン

ISO/TC 176/SC 1 は、2009 年総会における次の報告を受け、承認する。

- SC1 事務局に対し、IEC/TC1 (用語) にコンタクトし、リエゾンを維持する必要があるか確認するよう要請する。
- その他の既存のリエゾンを維持する (SC 1/N350 における事務局提案どおり)。

Resolution No. 5/2009—ホストへの謝辞

ISO/TC 176/SC 1 は、次のホストに対してそのもてなし及びサポートに謝意を表す。

- 日本工業標準調査会 (JISC)
- 日本規格協会 (JSA)

5.3 SC2 総会決議 (SC2/N857 参考訳)

Resolution No. 237

次期 ISO9001 のアイデア、概念に関する TG のリーダー任命

ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- 次期 ISO9001 のアイデア、概念に関する TG のリーダーに Mr Jose Dominguez (INLAC) を任命する

Resolution No. 238

ISO ハンドブック 中小企業のための ISO9001 改訂検討 TG のリーダー任命

ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- ISO ハンドブック 中小企業のための ISO 9001 改訂検討 TG のリーダーに Ms Denise Robitaille (USA) を任命する

Resolution No. 239

リエゾン機関

2009 年 2 月 27 日の ISO/TC 176/SC 2 総会における確認を受け、ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- 既存のリエゾン機関との関係を維持する

Resolution No. 240

DIS 9004 の移行

WG18 における ISO/DIS9004 に対するメンバーコメントの検討が終了したことにより、ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- ISO/DIS9004 を次の最終国際規格原案 (FDIS) 段階に移行する

Resolution No. 241

SME ハンドブック

ISO9001:2008 に対する ISO ハンドブック 中小企業のための ISO9001 の改訂検討が終了したことにより、ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- TC176 に対して、コメントのためメンバー機関に原案を回付することを求める（コメント期間：3ヶ月間）
- TC176 に対して、原案に対して提出されたコメントは、コメントレビュー及び最終原案作成のため、SC2 に回付することを求める
- 最終原案は、発行のために ISO 中央事務局に提出する

Resolution No. 242

ISO 10005, ISO 10006 及び ISO 10007 の定期見直し

ISO10005:2005、ISO 10006:2003 及び ISO 10007:2003 の定期見直しの結果を受け、ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- これら三規格における ISO9001:2000 への参照を更新し、ISO9001:2008 への参照とするために、各規格に対する技術正誤票（Technical Corrigendum）を発行する
- この決定を ISO 中央事務局に伝達する

Resolution No. 243

会議の主催者への感謝

ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- 会議の主催者である JISC 及び JSA、及び
- 会議のスポンサー機関である、JAB, JACB, JATA, リコー、富士通のもてなし及び運営に対して謝意を表す。

Resolution No. 244

議長への感謝

ISO/TC 176/SC 2 は次の事項を決議する:

- Dr. John Davies の 1986 年から長きにわたるチェアマンシップに感謝し、
- 今後の多幸を祈念する

5.4 SC3総会決議（SC3/N267参考訳）

Resolution No. 1(2009) ホストへの謝辞

ISO/TC 176/SC 3 は、ホストである日本工業標準調査会（JISC）及び日本規格協会（JSA）に対し、そのもてなし及び運営に対して謝意を表す。

Resolution No. 2(2009) WI 10004

ISO/TC 176/SC 3 は、東京会議で開発されたドラフト TS10004 を 2009 年 4 月 1 日までに事務局に提出し、ISO/TS10004 とするための各国投票に付すことを決議する。

Resolution No. 3(2009) WI 10004

ISO/TC 176/SC 3 は、2006 年の釜山総会で ISO/TS10004 を国際規格（IS）とするために新業務項目提案（NWIP）を回付することを想定していたことを想起し、

ISO の手続き上、この手続きはもはや不要であることに留意し、

ISO/TC 176/SC 3 は、WG14 が ISO/TS10004 の投票及び発行の後、ISO/DIS10004 として開発する作業を継続することを決議する。

Resolution No. 4(2009) WI 10018

ISO/TC 176/SC 3 は、東京会議で開発された ISO10018 の第 1 次委員会原案（CD1）を 2009 年 3 月 20 日までに事務局に提出し、2009 年 4 月 20 日までに各国にコメントを求めることを決議する。

Resolution No. 5(2009) WI 10018

ISO/TC 176/SC 3 は、ISO10018 の開発が、ISO が求めるスケジュールに沿っていないことに留意し、品質マネジメントにおける“人の側面”の標準化は新しくかつ複雑なテーマであることに留意し、

ISO/TC 176/SC 3 は、ISO/TMB に対して ISO10018（品質マネジメント—組織の人々の参画及び力量をマネジメントするための指針）の開発期間を延長するよう要請することを決議する。

Resolution No. 6(2009) 顧客満足リエゾンチーム

ISO/TC 176/SC 3は、前回ノビサド会議において、長期的な視野で整合を図るために顧客満足リエゾンチームを発足したのに引き続き、顧客満足リエゾンチームが顧客満足に関する新たなプロジェクトの可能性をSC3のリーダーシップに助言することを決議する。

Resolution No. 7(2009) 電子商取引に関するNWIP

ISO/TC 176/SC 3は、品質マネジメント－顧客満足－電子商取引の指針の新業務項目提案（NWIP）に関するISO/TMBの要請に留意し、ISO/TMBに対しNWIPを回付するよう要請することを決議する。

Resolution No. 8(2009) 監査要求事項

ISO/TC 176の要請に基づきISO/TC 176/SC 3は、ISO 17021-2の開発状況に関する情報を得るためにISO/TC 176/SC 3に任命されたエキスパートをISO/CASCO WG21に派遣し、次回のSC3総会で報告するよう要請することを決議する。

Resolution No. 9(2009) 新規内部リエゾン

ISO/TC 176/SC 3は、SC3が扱う規格の分野の活動に留意し、ISO/IEC/JTC1/SC7（ソフトウェア及びシステムエンジニアリング）との内部リエゾンを承認する。

Resolution No. 10(2009) TC 69とのリエゾン

シックスシグマに関する次の2つの規格の開発に関するISO/TC 69の決定に留意し、

－NWIP 13053-1 プロセスマネジメントにおける統計的手法－シックスシグマ第1部：DMAIC手法

－NWIP 13053-2 プロセスマネジメントにおける統計的手法－シックスシグマ第2部：統計的手法を利用したプロセス改善アプローチ

ISO/TC 176/SC 3の範囲は品質マネジメントにおける支援技術に関する規格の開発であること、及びISO/TC 69とのリエゾンは既に確立されていることに留意し、

ISO/TC 176/SC 3は、ISO/TC 69/SC 7（シックスシグマの実施に関する統計的手法及び関連手法の適用）との内部リエゾンを確立し、ISO/TC 69/SC 7の活動、開発中の規格とSC3の規格との潜在的な重複についてモニターすることを決議する。

Resolution No. 11(2009) 副議長の再任

ISO/TC 176/SC 3は、ISO中央事務局によるツイニングの一環として、Gustavo Pontoreiro（アルゼンチン）を更なる3年の任期で再任することを決議する。